

# 株式情報

(2024年3月31日現在)

## 株式の状況

発行可能株式の総数	25,224,000株
発行済株式の総数	6,306,000株
株主の総数	3,090名

## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)
公告の方法	電子公告により行います。 ただし、やむを得ない事由により、 電子公告によることができない場合は、 日本経済新聞に掲載する方法により行います。

## 株式所有者別状況



個人・その他	2,973名 2,328千株 (36.9%)
その他法人	106名 2,731千株 (43.3%)
金融機関	11名 1,245千株 (19.8%)

### 〈ご注意〉

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

より詳細な情報は弊社WEBサイトをご覧ください。

<https://www.yamau-holdings.co.jp/>

ヤマウホールディングス

検索



〒810-0073  
福岡県福岡市中央区舞鶴3丁目2番1号  
TEL: 092-718-2260 FAX: 092-718-2261



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。

# YAMAU GROUP REPORT 2024

2023.4.1・・・2024.3.31



ヤマウホールディングス株式会社  
証券コード：5284

# 株主の皆様へ

## ～中期経営計画Ⅵからヤマウグループ長期VISION2035へ～



代表取締役社長  
有田 徹也

株主の皆様には格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。  
当社グループは、2021年4月に「ヤマウホールディングス株式会社」を持株会社とする持株会社体制へと移行し、2024年3月までの「中期経営計画Ⅵ」をスタートさせました。中期経営計画Ⅵでは、それまでの個社中心の経営から、真のグループ経営へと転換を進めるべく、ホールディングス主導の下、グループ間連携強化を中心に取り組み推進して参りました。その結果、グループの一体感醸成、各社の相互理解促進などを含めて、グループの総合力発揮のための素地固めができたと考えております。

一方、社会は不確実性の時代に突入し、将来の事業環境の変化を見通すことが益々困難な状況となっており、企業には社会課題解決への役割が一層強く期待されております。このような中、当社グループは社会環境の将来シナリオの検討を出発点とする長期展望と、そこからのバックキャストに基づく経営計画策定が必要と考え、2035年を目標年度とする「ヤマウグループ長期VISION2035」及びその1st Stageとして2024年4月から2027年3月を計画期間とする「中期経営計画Plan C<sup>3</sup>（シーキューブ）」を策定しました。

また当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策として位置付けております。更なる株主還元の充実を図るべく、連結配当性向30%程度を目安に業績に応じた配当を実施することを基本方針としております。この方針に基づき、当期の1株当たり配当金は86円とさせていただきます。

最後に、株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援の程、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

## ヤマウグループ長期VISION2035について

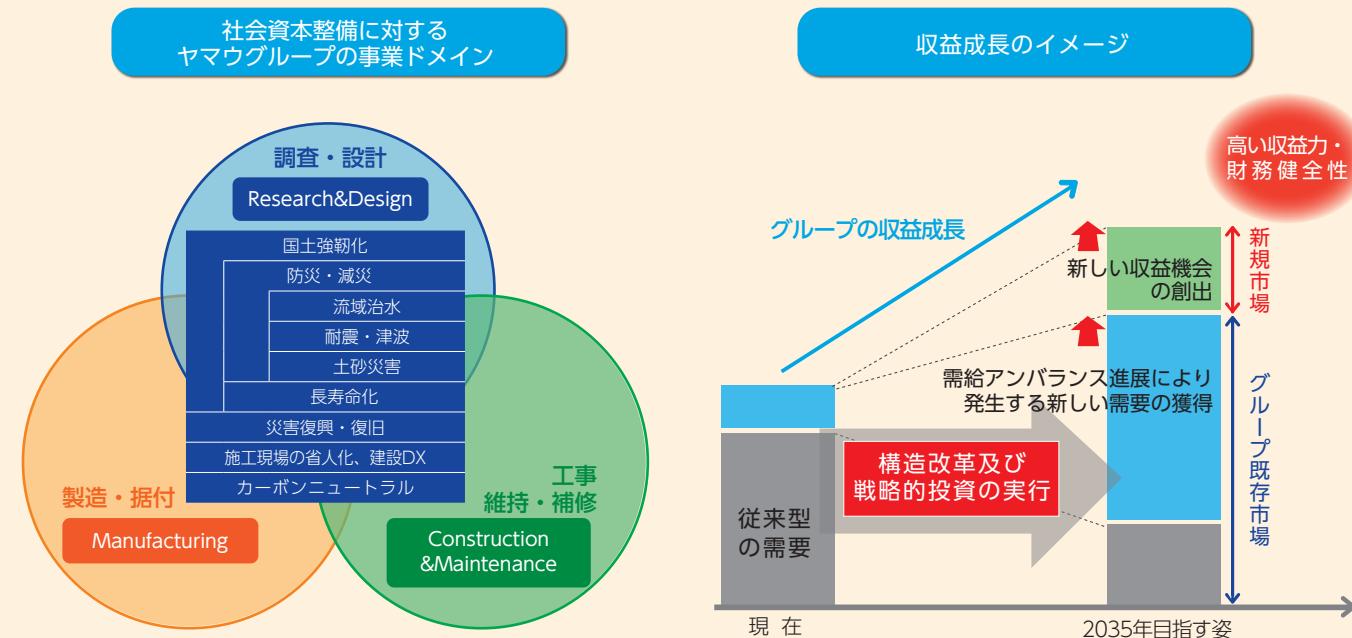
需給アンバランスの拡大により従来型の需要が縮小する中で、抜本的な構造改革と将来へ向けた戦略的投資を執行、グループの収益成長を実現し、高い収益力と財務健全性を確保することを目指します。

「ヤマウグループ長期VISION2035」では、アンバランス社会の解消をグループのミッションとして捉え、グループのパーパスを再定義しました。パーパスを起点とし、目標年度である2035年に向けて、人材不足時代を勝ち抜く抜本的な構造改革と、需給のアンバランスから生じる新たな事業機会獲得を進めて参ります。それにより、高い財務健全性を維持しつつ、人的資本経営の推進、製造・施工プロセスの機械化・省人化、新製品・工法の開発へ向けた戦略的投資を執行し、更なる収益成長を実現します。

### ヤマウホールディングスのパーパス（存在意義）

インフラ整備の総合ソリューションパートナーとして、  
サステナブルで安心・安全な社会の実現に貢献する。

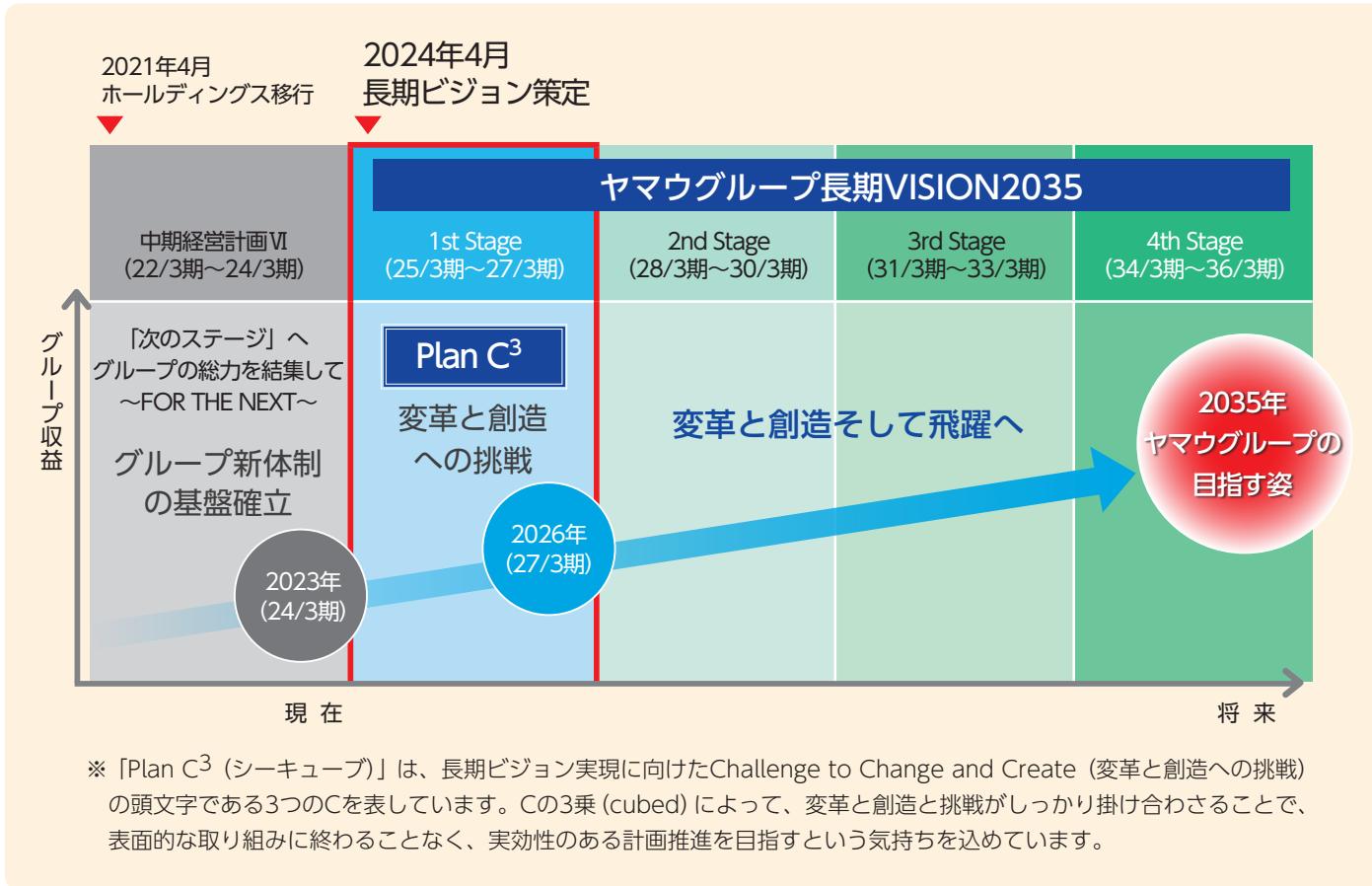
### 【ヤマウホールディングスが目指す姿(目標年度2035年)】



▶ 「調査・設計」、「製造・据付施工」、「工事、維持・補修」の3分野をヤマウグループの事業ドメインと致します。

# 中期経営計画 Plan C<sup>3</sup> (シーキューブ) について

2024年4月からの3ヶ年中期経営計画「Plan C<sup>3</sup>」は、長期ビジョンの実現に向けた1st Stageとして「変革と創造への挑戦」期と位置付け、将来目線に立ったグループの構造改革と成長戦略に着手致します。

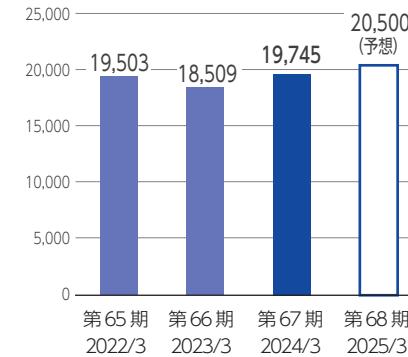


## 2027年3月期 定量目標

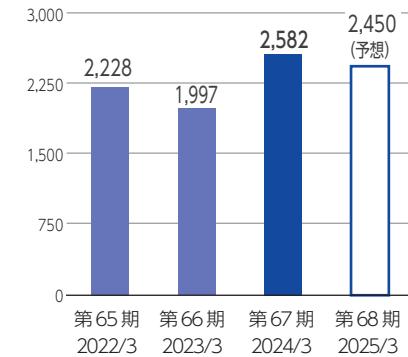
連結売上高 <b>220億円</b>	連結営業利益 <b>27.5億円</b>	連結営業利益率 <b>12.5%</b>	ROIC <b>10%以上</b>
-----------------------	-------------------------	-------------------------	----------------------

# 主要な連結経営指標

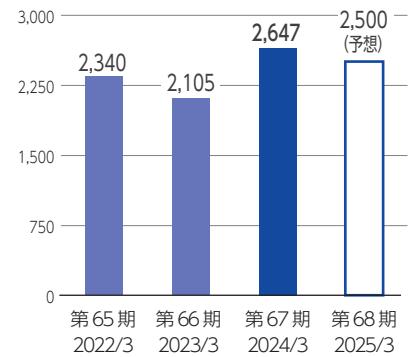
売上高 単位:百万円



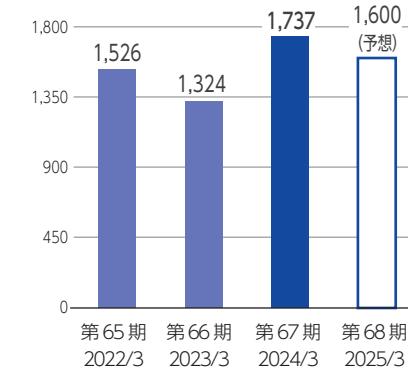
営業利益 単位:百万円



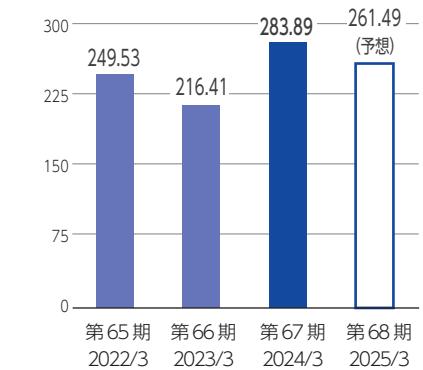
経常利益 単位:百万円



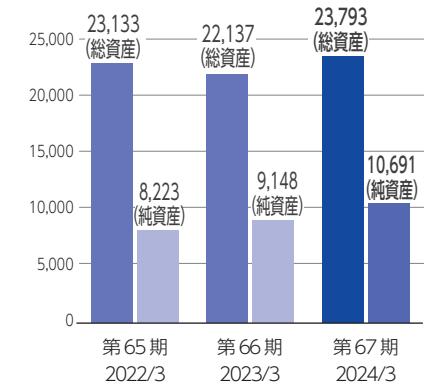
親会社株主に帰属する当期純利益 単位:百万円



1株当たり当期純利益 単位:円



総資産/純資産 単位:百万円



## 当期の営業概況

### ■ 当期の営業概況

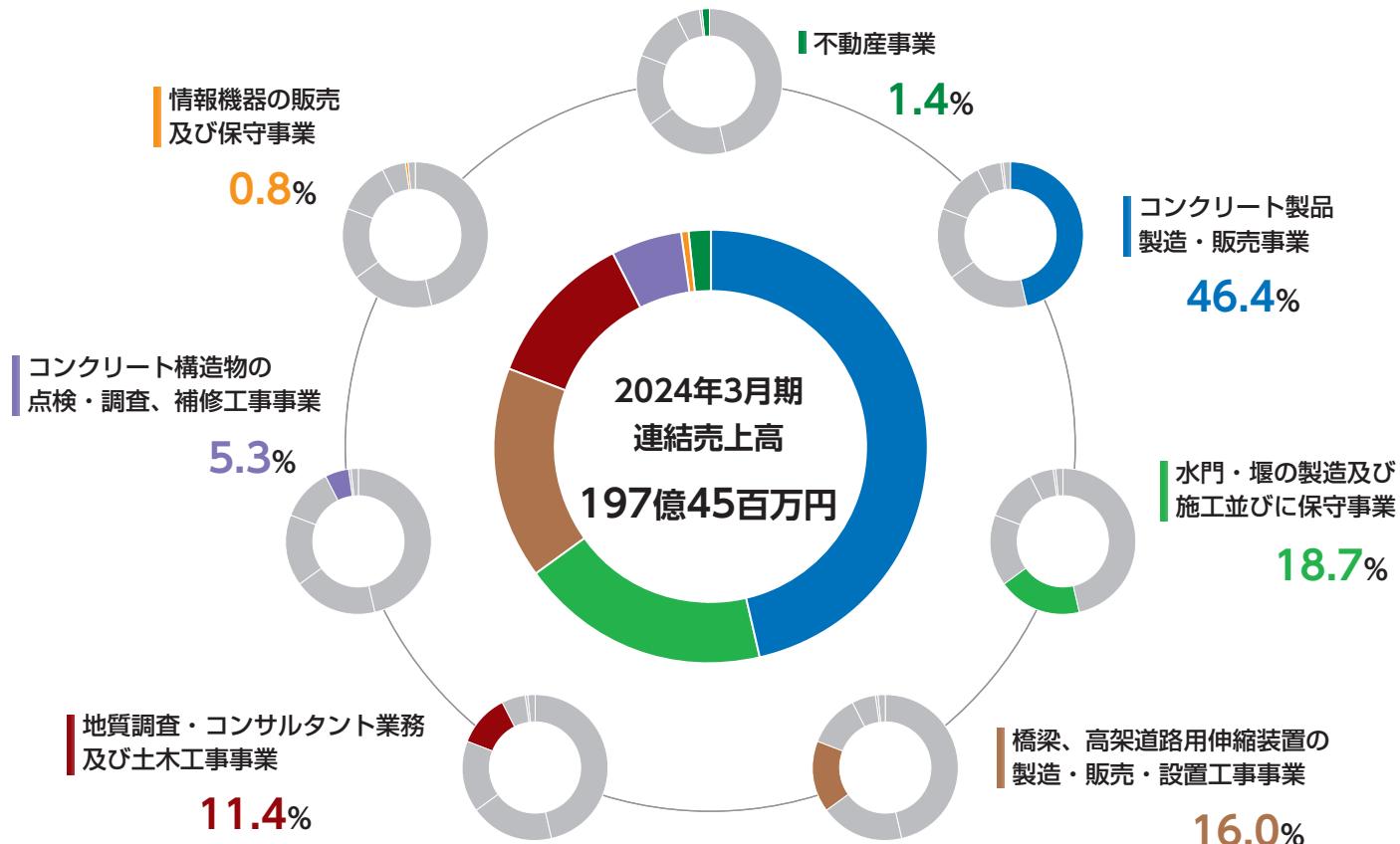
当社グループの主要市場である九州の経済については、国が進める防災・減災、国土強靱化のための予算が配分される一方で、中・長期的には公共投資の縮減により漸減する方向であることが予想されます。また、先行きが見通せない資材・原材料価格の高騰や、物流の2024年問題による影響等もあり、予断を許さない状況が続いております。

このような経営環境下で当社グループでは、2024年3月期を最終年度とする「中期経営計画Ⅵ」の取り組みにより、ヤマウグループが将来に亘って安定的に成長を続けるための経営・収益基盤の更なる見直し、グループ一体感の醸成等、グループの総

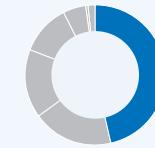
合力発揮のための素地固めを行って参りました。

当連結会計年度の業績は、売上高については197億45百万円（前年同期比6.7%増）となりました。利益面では、高騰する資材・原材料等の販売価格への転嫁等により、営業利益が25億82百万円（前年同期比29.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益が17億37百万円（前年同期比31.2%増）となりました。

当年度において発生致しました、樋門ゲート補修工事における海水流入事故の発生につきましては、ご関係者の皆様に多大なるご迷惑とご心配をお掛け致しましたこととお詫び申し上げます。



## セグメント別営業の状況



### コンクリート製品製造・販売事業

46.4% (売上高構成比)



土木製品:ケスタI型 (CNEcon)

売上高

9,498  
百万円

9,431  
百万円

2023/3

2024/3

セグメント利益

1,213  
百万円

1,381  
百万円

2023/3

2024/3

コンクリート製品製造・販売事業の売上は、土木製品、景観製品、レジンコンクリート製品の販売によるものであります。当連結会計年度においては、公共投資が耐震、長寿命化、老朽化対策などの既存インフラの維持管理や防災・減災対策へシフトしていく中、インフラ整備工事への対応や防災・減災分野等の受注獲得に注力致しました。また、高騰する資材・原材料等の販売価格への転嫁並びに製造原価、一般管理費の削減等に取り組んで参りました。

その結果、当連結会計年度においては、コンクリート製品製造・販売事業の売上高は、94億31百万円（前年同期比0.7%減）、セグメント利益（営業利益）は13億81百万円（前年同期比13.9%増）となりました。

### ■ コンクリート製品のご紹介

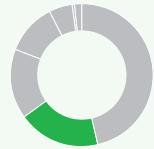
#### 防災・減災関連製品

災害復旧、インフラ老朽化対策等の多種多様な要望に対応できる製品を開発・提案し、国策である防災・減災、国土強靱化に貢献して参ります。



#### 雨水貯留槽「アクアポンド」シリーズ

市街地等で公園、駐車場等の地下に設置して降雨を一時的に貯留し、下流河川等への降水負担を軽減する地下埋設型のプレキャスト雨水貯留槽です。



### 水門・堰の製造及び施工並びに保守事業

**18.7%** (売上高構成比)

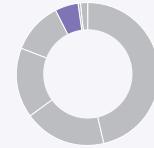
売上高 **36億94**百万円 セグメント利益 **3億63**百万円  
前年同期比**1.8%**増 前年同期比**23.6%**増



ローラゲートメンテナンス工事

水門・堰の製造及び施工並びに保守事業の売上は、水門、除塵機、水管橋等鋼構造物の製造、施工並びにそれらの保守によるものであります。

当連結会計年度においては、水門・堰の製造及び施工並びに保守事業の業績は、売上高は36億94百万円（前年同期比1.8%増）、セグメント利益（営業利益）は、3億63百万円（前年同期比23.6%増）となりました。なお、樋門ゲート補修工事時における海水流入事故に関し、当連結会計年度において合理的に見積り可能な費用21百万円を引当計上しております。



### コンクリート建造物の点検・調査、補修工事業

**5.3%** (売上高構成比)

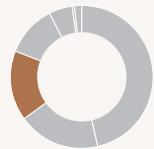
売上高 **10億53**百万円 セグメント利益 **1億51**百万円  
前年同期比**29.5%**増 前年同期比**28.6%**増



橋梁点検

コンクリート建造物の点検・調査、補修工事業の売上は、橋梁、トンネル等コンクリート建造物の点検・調査業務の請負、補修工事・補強設計業務の請負によるものであります。

当連結会計年度においては、コンクリート建造物の点検・調査、補修工事業の売上高は、受注増加により10億53百万円（前年同期比29.5%増）、セグメント利益（営業利益）は1億51百万円（前年同期比28.6%増）となりました。



### 橋梁、高架道路用伸縮装置の製造・販売・設置工事業

**16.0%** (売上高構成比)

売上高 **31億51**百万円 セグメント利益 **2億29**百万円  
前年同期比**20.4%**増 前年同期比**629.8%**増



メタルガージョイント

橋梁、高架道路用伸縮装置の製造・販売・設置工事業の売上は、主に橋梁、高架道路用伸縮装置の製造・販売・設置工事によるものであります。

当連結会計年度においては、高架道路用伸縮装置の製造・販売・設置事業の業績は、製品販売の特需があったことや、受注増及び天候に恵まれ工事が計画以上に進捗したこと等により、売上高は31億51百万円（前年同期比20.4%増）、セグメント利益（営業利益）は2億29百万円（前年同期比629.8%増）となりました。



### 情報機器の販売及び保守事業

**0.8%** (売上高構成比)

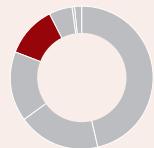
売上高 **1億66**百万円 セグメント利益 **35**百万円  
前年同期比**13.5%**減 前年同期比**3.7%**減



鍵管理機

情報機器の販売及び保守事業の売上は、主に金融機関向け業務処理支援機器及びその周辺機器の販売並びにそれらの保守事業によるものであります。

当連結会計年度においては、情報機器の販売及び保守事業の売上高は1億66百万円（前年同期比13.5%減）、セグメント利益（営業利益）は35百万円（前年同期比3.7%減）となりました。



### 地質調査・コンサルタント業務及び土木工事業

**11.4%** (売上高構成比)

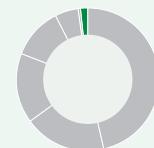
売上高 **22億44**百万円 セグメント利益 **2億60**百万円  
前年同期比**23.0%**増 前年同期比**15.1%**増



道路災害復旧工事

地質調査・コンサルタント業務及び土木工事業の売上は、地質調査及び地すべり対策工事並びに測量・設計業務によるものであります。

当連結会計年度においては、地質調査・コンサルタント業務及び土木工事業の業績は、大口受注のJV土木工事が寄与し、売上高は、22億44百万円（前年同期比23.0%増）、セグメント利益（営業利益）は2億60百万円（前年同期比15.1%増）となりました。



### 不動産事業

**1.4%** (売上高構成比)

売上高 **2億75**百万円 セグメント利益 **1億64**百万円  
前年同期比**0.4%**減 前年同期比**3.9%**増



ヤマウビル

不動産事業の売上は、主に不動産の賃貸によるものであります。

当連結会計年度においては、不動産事業の売上高は2億75百万円（前年同期比0.4%減）、セグメント利益（営業利益）は1億64百万円（前年同期比3.9%増）となりました。

# 会社情報

(2024年6月26日現在)

## 会社概要

商号	ヤマウホールディングス株式会社
本社	福岡市中央区舞鶴3丁目2番1号
設立	1958年(昭和33年)2月
資本金	8億円
代表者	代表取締役社長 有田 徹也
従業員(連結)	815名(2024年3月31日現在)

## 会社役員

代表取締役社長	有田 徹也
取締役	徳安 正範
取締役	倉智 清敬
取締役(社外)	宮田 年耕
取締役(社外)	太田 一郎
監査等委員である取締役(常勤)	一瀬 泰之
監査等委員である取締役(社外)	櫻井 文夫
監査等委員である取締役(社外)	南谷 朝子

## グループカンパニー

(株) ヤマウ	コンクリート製品製造・販売事業 コンクリート構造物の点検・調査、補修工事事業
開成工業(株)	水門・堰の製造及び施工並びに保守事業
大栄開発(株)	地質調査・コンサルタント業務及び土木工事事業
中外道路(株)	橋梁、高架道路用伸縮装置の製造・販売・設置工事事業
メック(株)	コンクリート構造物の点検・調査、補修工事事業
光洋システム機器(株)	情報機器の販売及び保守事業
大分フジ(株)	コンクリート製品製造・販売事業
(株)熊本ヤマウ	コンクリート製品製造・販売事業

## 拠点・グループカンパニー

